



9197

夢見草第五

廻文之類句

春

はるのそふいひのいひの屠蘇の酒 佳吉 未次

己の年よ

業はくははつははつわりの業 日

業の業の業

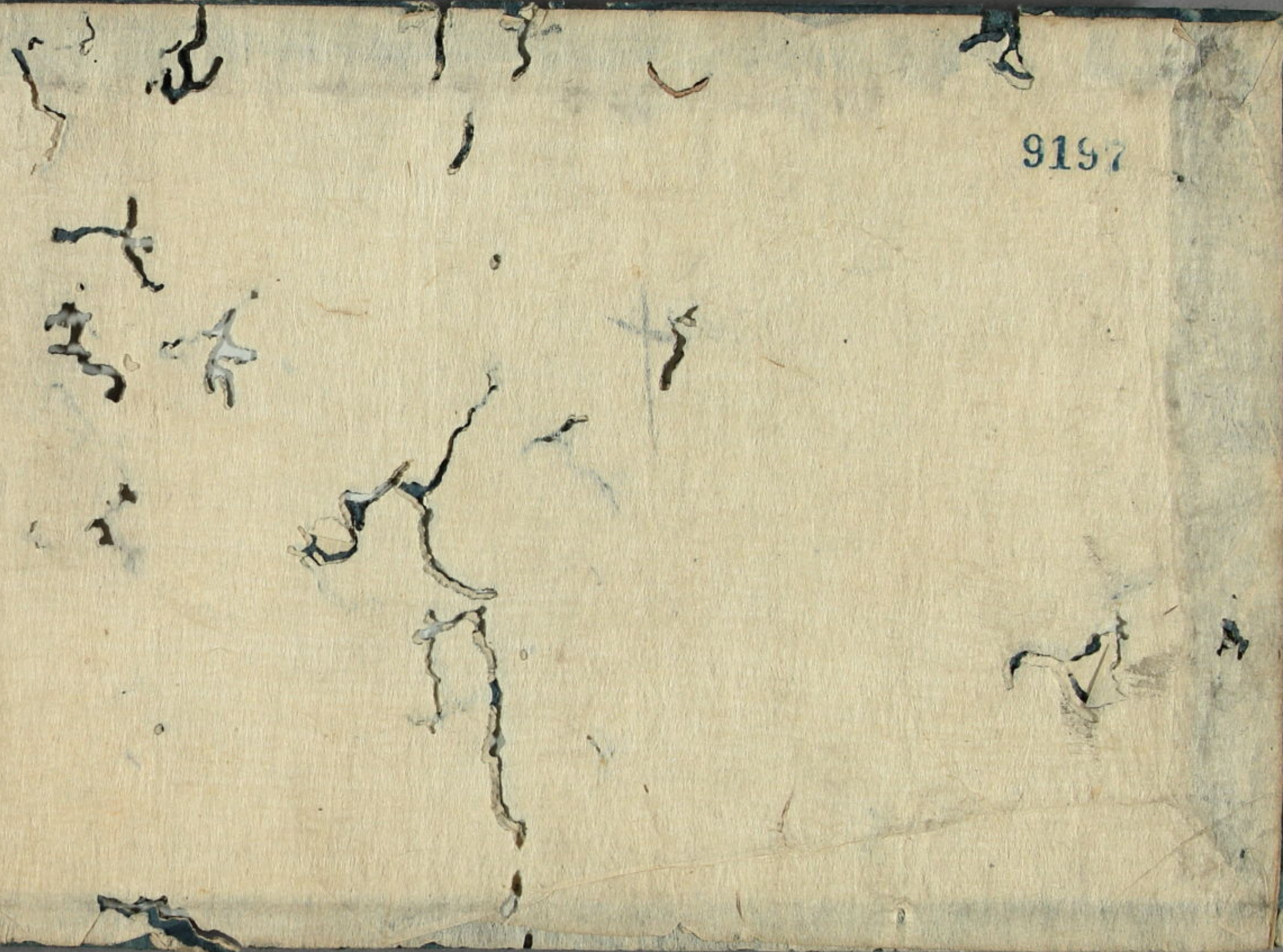
あつあつあつあつあつあつあつあつ 揚判 業之

あつあつあつあつあつあつあつあつ 揚判 業之

あつあつあつあつあつあつあつあつ 揚判 業之

あつあつあつあつあつあつあつあつ 揚判 業之

あつあつあつあつあつあつあつあつ 揚判 業之



あつらひのきりぎりす 後室

たつたは 不冷

春のついで 二意

のしほ 空存

あつらひ 正村

きの 理重

ま 宜真

な 政次

あ 不冷

い 未次

は 志雅

あ 志雅

あ 作者

い 不冷

あ 一吹

あ 一吹

い 松尾

あ 松尾

あ 信要

あ 政次

あ 宜真

あ 日新

あ 作者

あ 不知

夏

咲くは十とる花と女目草 列 政次
 咲くよといふ花と女目草 大 眞
 咲くよといふ花と女目草 列 政次
 咲くよといふ花と女目草 列 女重
 咲くよといふ花と女目草 大 休
 咲くよといふ花と女目草 列 正直
 咲くよといふ花と女目草 大 利重
 咲くよといふ花と女目草 列 時征
 咲くよといふ花と女目草 大 時征

秋

咲くよといふ花と女目草 佳吉 未次
 中廣ひ秋はうまはいろひ 大 常
 咲くよといふ花と女目草 列 利重
 咲くよといふ花と女目草 大 春幸
 咲くよといふ花と女目草 列 一武
 咲くよといふ花と女目草 大 養白
 咲くよといふ花と女目草 列 定宣
 咲くよといふ花と女目草 大 眞
 咲くよといふ花と女目草 列 定宣
 咲くよといふ花と女目草 大 眞

うらやうらやうら傍つらつら傍
 とげのうのすくとの藤のき柄方
 是れ池邊の月よふ家氣紀伊
 池まき下木及び月よ新傍
 月よ又あめあめあめ紀伊
 あらめあめあめあめ夜
 月のあめあめあめ日
 常月よあめあめあめ夜

付句

ま

付句

色とけりた花力ぞ人
 落てくる鞠をどあつる柳陰太極 次良
 前後左右のなるけんまき傍
 名入志所わら花は雪より白傍 永次
 菊よ経法寺の茶葉江戸
 弁簾あるとくりの花を生正春
 毛いさや花力たんまん
 あまは花力清なるようり
 ころの朽もあつる川中
 浮世はらわら花力波のと

桑田のつぎみりゆの奥

里はまき葉林のたはまあつ盛

化事乃傍をねつこい棚

高もなるわつともゆり友 毒 常文

けいの種は男よまきこく

ねんねひらの妻にたる大板 政也

とつさつと川野のあなを

維は館多のあひとそう紅 わる 玄礼

花の陰より香食城子

池乃傍の流くあつと永早

涎もたるく鼻もくねり

引をそ半波のほろく保 なる 定次

地ふりわをづつれ政

草のけいさつろとそ大板 たり 政也

夏

あまはたわつありあり

夏はさつろかたの江戸 ねんねわ浦 正春

まのきんはなはらねかひ

まのそへなさつろの大板 ねんね 毒之

みんものたつとろ大板 ねんね ねんね

葛浦化のつとろ大板 ねんね 未次

後をさつ何とそえはの大板 ねんね

とこもゆりくねんね大板 ねんね 休次

ささくろ敷屋は地は木織

その家もさきまは夏月夜 日 撃子

さきまの日のけはあし

あらしの雲も敷屋の内

うきうきあかじこの百葉

朝はゆき風晚は風と 岩子 宗也

あまのかりはほろのふき

瓢箪の露もささくろの夜 大夜 重次

ささくろのそととあ

かかりと鶴の月出 日 次良

目よかぬ花は推易とあ

胸よけは蓮とこの名は付 場 一武

うきろ敷りあせ城の屋

惟よりせんたるるも津津波 日 宅次

ゆきあひの志はあき わけ

あまののんまをせとあ

あまののんまをせとあ

祇園の念やせむる巻は 岩子 宗也

秋

あまのひは後月の秋也

ひらばたの秋は木 場 成利

冷くもささくろ 大夜

秋也 大夜

冬

又冬くまやかし氷よりわら

夕方の霜降初て水時節

冬に然あつては海の時節

冬にあつては海の時節

男中も時節あり神

冬よりいふ事いふ事

冬よりいふ事いふ事

冬よりいふ事いふ事

冬よりいふ事いふ事

冬よりいふ事いふ事

勝明

真次

宗

季吟

奇任

和泉

謙叙

沈後の園を今ありの

越後海はありありあり

時節の冬もまことあり

冬よりいふ事いふ事

冬

冬よりいふ事いふ事

冬よりいふ事いふ事

冬よりいふ事いふ事

冬よりいふ事いふ事

冬よりいふ事いふ事

冬よりいふ事いふ事

夜

智酒

喬

一函

大夜

正堂

日

宗立

日

抱持あり落むる中

あつた妻あつたあつた日 皇順

いのかたはてまの清水

わつたあつたあつたあつた日 直真

抱くあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた 休承

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた 保友

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた 月

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた 月

あつたあつたあつたあつた 日

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた 宗也

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた 末次

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた 日

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

素うらるかといふてくそんは 五 次良

とくく初屋はなくと 初

其の初は由やとて 七 次盛 曰

胸よもわぬまのあかきけ

軽なまの女の細帯ありて 堀 末次

消入りしれん花こそあれ

うら初者のとてえは 八 次正 曰

やめやももあわぬま 曰

名香の煙くら守を 九 次接 曰

多よんらんたくと 和泉

るうとを流しけを 和泉 蒲劔

ら 和泉

うら初は遠きの 五 次礼

ゆらしく 六 次茶

ちまりの中も 七 次天目 曰

湯も 八 次花

月よも 九 次花

たがる糸 十 次花

梧ら 十一 次花

舞 十二 次花

まの長 十三 次花

つ 十四 次花

お 十五 次花

と 十六 次花

すき官にわきあつるの美 春 宗立

ひのちをくねるものけ

なほけりしうみ紙巻の巻 のり

雑

神乃戸帳まねくまえ

わさけておまけ紙巻 坊 成安

をたぬらきもらうくまえ

ゆらりてはまもこの水鏡 日 勝明

曲葉のちもくぬ妙糸

三毒むきよはお経の切 日

暮夜 色

順れば丸 日 一武

才より火煙 春

刀はなりうら不動あり付 春 真次

いそのま 春

寺ふとく 春 保文

神も佛とある 春

ものま 天橋 寄任

わらう 春

つし 春

をぬ 春

福 春

わ 春

少もかえりて夜病の種

西守くもむじ守くも

三毒の毒液は向て身を合陽九毒

三十三と作らるる人さ

天の板は程くよとさくそ

おれまの積まあるるま卵

あつたしむるものせつと毒正重

親まぶらぬまはあまれ

丸の内はれまも本はひかりを

ひびくひびくま毒

本の枝は向もさるるのめ毒一武

強義新法ゆてくくうん

一命なりがむと程くさるるの場毒日

宙まの煙は目の下よみる

痛めるにのあつりまをて毒蜜雅

かろくひんまはひかりを

まををく毒機は風のひま毒蜜雅

塚のあつりまもあたまある

行人は刀槍をてひうあ大坂宗立

奇薬は信る山陰の唐

りしあももうら毎の著も掃捨日

にまぐれは母の中のま

たひくは掃除をのめ毒常文

めびるまも入神るのま

望しわしの縁方紙帳の芝は日

みお徳まのなまきけをあす

ひまねよさらたをまのゆん 味 水次

虹下のそらそら位者のうら

名居まのめ縁よふ敷んをて 葎 一南

とるし也一きおの津な高道

其の目舞はまのからあり 葎 真次

才越牛たはうらまのえ 葎

刀さもうりて吊小親の夜日

まよく持まははらひれ

本腰は早を念まふお庄後日

由念はあつれひまそあふ

このまにひおたきけ縁也 揚 可隆

いふ縁くとらんゆらふ人

弁巻よほどしきまを男方

たうひよも馬ん地えとれ

色かめんたよまおる冬も何 葎 葎之

ゆらう志めてそれとる書

中屋の櫃もよあぢうちま酒 日 致也

ゆらう志めてそれとる書

病将をえお種なごし糸

葎葉もさうりそり米もさ筋

草も後まのまけし持持縁也 葎 重次

国司の影り障らふ人

まはるのちかき世にそとにおはす 月

鳴るまはる野をふしはけり

あはれおれもそとにのちのち 常 成安

とよまのちのちのちのちのち

あはれおれもそとにのちのち

いづれおれもそとにのちのち

終るおれもそとにのちのち 行正 行正

あはれおれもそとにのちのち

あはれおれもそとにのちのち 月

あはれおれもそとにのちのち

あはれおれもそとにのちのち 賞 賞

あはれおれもそとにのちのち

あはれおれもそとにのちのち

あはれおれもそとにのちのち

あはれおれもそとにのちのち

あはれおれもそとにのちのち

あはれおれもそとにのちのち 宣真 宣真

あはれおれもそとにのちのち

あはれおれもそとにのちのち 月

あはれおれもそとにのちのち

あはれおれもそとにのちのち 休 休

あはれおれもそとにのちのち

あはれおれもそとにのちのち

あはれおれもそとにのちのち

懐くはなれぬものも然る也
 髪の内は心と云ふをそとらる
 骨は心の骨は心は骨は心は骨
 子と云ふは心と云ふは心と云ふ
 左記は心と云ふは心と云ふは心
 あり法御心と云ふは心と云ふ
 風まじくは心は心と云ふは心
 百年は心と云ふは心と云ふは心
 りたんの心と云ふは心と云ふは心
 後くまも心は心と云ふは心
 折紙を心と云ふは心と云ふは心
 拙持方は心と云ふは心と云ふは心

寺のありては心と云ふは心と云ふは心 末次

水と云ふは心と云ふは心と云ふは心

楠の水は心と云ふは心と云ふは心 同

舟は心と云ふは心と云ふは心

舟は心と云ふは心と云ふは心 寄任

舟は心と云ふは心と云ふは心

舟は心と云ふは心と云ふは心 珍也

舟は心と云ふは心と云ふは心

舟は心と云ふは心と云ふは心 正統

舟は心と云ふは心と云ふは心

舟は心と云ふは心と云ふは心 去之

舟は心と云ふは心と云ふは心

善伝は中酒持越りて曰

乃らういふりしはあつたが

獨子のりまのあつたて いま 甚之

吾人よふりおきま

あつたあつたの獨のちま 日 次良

又うたふん煙火のり

湯水あつた池の果とりて 勝 恭也

折半城今がし 浦 次

助者の着よわををく 日 宅次

あつたあつたはけ切

さうあつたあつた 日

よらうりてあつたあつた

奇癖ある廻文あつた 勝 宅次

解はあつたあつた 江戸

あつたあつたあつた 正妻

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた 大板 次也

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた 日

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた 播州 正信

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

白蛇舞の事よそのおる

かひたる猫がくある谷の志こ 大直 去貞

桃志ぬ海客の家まを衣

んらくさおる旅の風入 大直 祐是

うさおりのあしわくる松

うらみ死る武の表志れ 香 良任

山のまを月と早あひ

ちえ夜の幕打まをいりま 紀別 元上

鮑らりや釣夕の佳法

あまれは海客のおくら 和泉 蒲劔

水海ものいよ海守海客

硯よあふくさる 江戸 玄札

衣く城客のそま 江戸 玄札

高く雲わの甘人 江戸 玄札

とれぬ海客のあま

鼻強りく 江戸 正春

名乗あひては 江戸 正春

水尾屋 江戸 元総

あまよ刀 江戸 元総

板本 江戸 親重

懐紙 江戸 親重

賤何人の目 江戸 親重

あま 江戸 親重

割 江戸 正春

あはれそめれのぬおのけ

別後なつひのあつひよりついで 歌 末次

親戚たるおの娘のおんきさ

けるのしほ猫は名残つけて 天西 良任

髪残あつくる女侍

古風な事あはしり此方の程 本夜 宗立

三河ある義經を今も強合

深えそぬぎんぐられあそ 同 保友

月の前はしものなる純玉

梅じつひのふゆ葉のさゆなら 同 性良

よもぎもさきいそそ

うちあふはぬちのしひ目 同 春峯

美しき雲の海へとりぬる

硯は雲たのふりととる 本夜 春峯

人あはれききは渡色福徳

送摺のまのうらまは 同 保友

天と寺うらまを死後者

松風のきりしきけで葉うら 同

元三残きりて終ふ陰奥

雨うら 同

心あはれくもさけらるる人

糸よりの物事あらはらるる 同

あつたの命たまたま 同

あくも 同

花のゆくはなをくんとぞとら
氷精の雲天気がすくくたて

あふととれとあふれてふ

難集とてあふく中のまの

よひあふくくはく

泉水の雲をたひく料飛で

珊瑚の枕涙をうりよ

はれ子の程あく消あふれ

あふく子息をのぞくそと

うらも子細の猶あふれ

あふくちあふくあふく人

あふくはるあふくあふく

永次

恭直

重義

良任

内教之次第

作者不知五十二

系之住

季吟 十五

廣寧 十七

真知 一

言聽 七

中内系

貞直 六

梅盛 五

外記 一

幸以 三

江戸之任

玄札 八

未得 二

重定 三

元明 十

徳元 一

宣安 一

玄房 一

重久 八

松浦久六郎

四郎在表門

青戸原系

雷田三光門

子夜十郎在表門

江連 市丸門

一

松平志乃 季治

十二

後戶丸三郎 高

十一

荻門精房 貞之

廿二

惠友三郎 重成

十一

大谷左大兼 照繁

七

申五郎 正宜

一

美濃初八重 重良

五

小九九左乃 宗勝

一

美濃初八重 持基

六

後戶丸三郎 孤峯

一

常陸左乃 後友

三

渡前

四

在原 重茂

五

信清

二

樹忠三郎 城之介

二

林鹿

三

得兵三郎 忠良

二

直重

二

懸也 室治

三

直賢

一

明女十郎 正傾

一

好靈

二

平定右三郎 盧甘

一

岩村作左門 持後

二

仇之本 古算子

一

三田 助之

一

世本 隼之介

一

申良復三郎 正春

三

一友

一

江戸流

一

塙之住

一

成安

四

成尾 玉鞆

九

多卜

十

慶也

一

八丈市三郎 一武

六

羽側 正定

十五

澁井左之 正村

六十一

河知子作左乃 成

十一

因左乃 吉勝

二

勇屋左乃 治之

十八

水野左乃 頼廣

五十五

之本 正室

廿二

| | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 廣友 | 正宣 | 玄權 | 友次 | 重成 | 宗利 | 嘉雅 | 春幸 | 滿家 | 求次 | 勝明 | 成政 |
| 四 | 四 | 四 | 一 | 三 | 一 | 一 | 十九 | 三 | 十 | 十三 | 十一 |
| 一玄 | 勝安 | 木支 | 且省 | 成利 | 友重 | 定宣 | 宗利 | 故白 | 一守 | 正甫 | 成政 |
| 十 | 一 | 三 | 三 | 十一 | 十一 | 十六 | 六 | 二 | 一 | 六 | 十四 |

| | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 一剛 | 重直 | 常知 | 德之 | 春吉 | 尊也 | 宗茂 | 一圓 | 良室 | 廣次 | 家次 | 家求 |
| 二 | 一 | 一 | 一 | 三 | 一 | 六 | 三 | 一 | 二 | 三 | 一 |
| 忠重 | 本光 | 玄母 | 室利 | 友幸 | 二郎八 | 良後 | 賴次 | 正義 | 正義 | 義一 | 吉政 |
| 二 | 一 | 一 | 二 | 三 | 一 | 一 | 四 | 一 | 一 | 八 | 一 |

長生

帝五

久成

宗能

貞房

貞光

長正

豐阿

采之

大坂之住

休甫

一步

羽益

正茂

以端

末直

正重

正可

時救

成光

治盛

明行

水炯

宗立

三

一

一

一

一

二

一

一

五

七

六

以春

保友

助音

重負

道誓

休武

次良

嘉之

重明

正之

忠由

定負

三

世

七

一

五

五

五

北

十八

九

六

二

致也

吉靜

元藤

定房

如貞

榮春

宜真

行正

如春

白羽

慶德寺

宗繼

七

五

三

二

八

八

七

九

八

二

十一

十六

豐後屋十多

伊賀屋清水

神崎屋六

伊賀屋

甚

伊賀屋

甚

甚

甚

甚

甚

五

五

| | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|
| 元正 | 清治 | 友安 | 聖宅 | 高休 | 光友 | 元因 | 忠政 | 聖順 | 聖安 | 新太郎 | 玄正 |
| 一 | 二 | 五 | 四 | 十一 | 一 | 四 | 三 | 十三 | 九 | 一 | 三 |
| 元次 | 指雪 | 玄侗 | 玄扣 | 直林 | 長昌 | 玄可 | 悅春 | 盛行 | 正隆 | 重直 | 見仲 |
| 十 | 一 | 四 | 一 | 二 | 三 | 二 | 廿五 | 三 | 十三 | 一 | 二 |

| | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|
| 友房 | 義政 | 正悅 | 政武 | 元藤 | 九品寺 | 吉重 | 安悅 | 利當 | 常久 | 聖父 |
| 三 | 十四 | 一 | 二 | 一 | 一 | 二 | 四 | 二 | 八 | 一 |
| 忠保 | 吉貞 | 性良 | 春岑 | 城易 | 正勝 | 久勝 | 秋月 | 家成 | 且保 | 正之 |
| 一 | 二 | 九 | 十九 | 一 | 二 | 二 | 一 | 二 | 一 | 四 |

森

安通

宗友

二

并川 正友

三

宗岑

一

茶屋作之丞 元貞

二

近吉

七

豊後 自延

二

末次

一

重家

一

長吉

一

清以

二

源長

二

正友

三

之次

四

貞慶

一

正重

一

後真

三

玄貞

二

見海

一

正後

二

友之

一

重三郎

一

伊貞

二

友聲

六

良長

一

友松

一

元知

一

延清

二

信俊

一

正空

一

正成

二

聞斗

二

重治

一

高媛

三

孝市

一

寄安

一

有巳

一

智德

三

五ノ二ノ五

大島屋

宗友

末次

長吉

源長

之次

正重

玄貞

重七郎

正遺

友聲

重三郎

友松

延清

正空

高媛

寄安

智德

忠昌

森

安通

并川 正友

茶屋作之丞 元貞

豊後 自延

重家

清以

正友

貞慶

後真

見海

友之

伊貞

良長

元知

信俊

正成

重治

孝市

有巳

五ノ二ノ五

大島屋

宗友

末次

長吉

源長

之次

正重

玄貞

重七郎

正遺

友聲

重三郎

友松

延清

正空

高媛

寄安

智德

忠昌

義的 空三 一
 林美 完喰屋三ノ五 一
 昌良 完喰屋三ノ五 一
 天満之住 一
 秀之 空三 一
 宜相 一

空存 百十
 一函 七
 方孝 二
 定照 一
 安節 茂中 一
 好古 中川三三 四
 貞晴 五
 純生 二
 素全 尾崎 一
 宗清 二
 安當 松尾 十三
 一安 凡谷又方 一
 茂孝 一
 重義 十六
 定次 一
 修方 四

定吉 會置 二
 利良 松井 一
 元貞 一
 直旨 七
 義陳 七
 久任 伊花 百
 良任 中務武三 三
 正俊 伏見源三 一
 重吉 中村 七
 本好 生信 一
 宜陳 内里三三 三
 有次 内里三三 六
 吉竹 松本 二
 光如 廣津 四
 是三 世末 二
 蜜雅 七
 良重 四十五
 休安 今也 百
 寄任 伏見三三 七
 宗春 伏見源三 七
 重次 三矢 二
 正春 尾中 二
 昌次 内里源三 六
 有直 内里源三 十六

有^{山根} 五 茂純^江 二

正光^{山根} 三 可加^孫 三

行信^{信保} 一 重定^清 三

重雪^伴 一 重政^清 一

昔延^伴 六 令重 六

吉之^吉 二 利純^大 一

宜昌^木 二 吉長^余 一

知治^下 一 本紹 一

安政 八 妙安寺 一

長崎之住

野^野 廿七 太^太 一 貞 四

信時 一

山城

伏見^伏 二 八^八 秀山 一

重政 一

南都之住

重村 二 宗心 一

正清^生 一 永乘 四

保好^山 四 宗行 一

後治^子 三

河内之住

春霄

二

忠政

二

的場

十五

可啓

一

福聖住

資勝

四

資延

一

和泉之住

蒲劔

四

播磨之住

目純

一

正次

一

平次住

之友

二

正奇

二

有馬住

正香

一

胤春

一

上牧住

文索

五

元奇

二

上杉并虎住

皇明

七

正明

九

三田住

皇紀

一

玄考

二

兵庫住

之

三

市郎兵衛

三

唐條住

正室

一

見益

一

今官住

由之

一

直治

九

亦五

上江住

二

有馬住

同本

上米住

富田住

井原住

住丹住

住吉住

齊住

中務住

同森住

平次住

有馬住

同本

上牧住

富田住

上杉并虎住

住丹住

三田住

兵庫住

今官住

唐條住

唐修任此田兵之吏

十

壽哲

一

同北田安九門

一

重政

一

同北田安九門

一

同秀子息女

五

同秋原公方

一

同草場公房直

二

同大森長房

一

賴

一

近江之佳

德乘寺

性塚

二

柳川住平田德三承討宅

一

美濃

大垣住其川

玄貞

一

休元

一

尾張

名古屋住

清直

五

同後峯

五

駿河之佳

友三

二

駿河之佳

重長

三

信濃

上屋

忠步

一

長

延勝

万林

真孝

正威

清宣

元儀

新光寺

清親

慶茂

光康

未次

越後

新河住家之

景高書夏

景則

房次

舍茂

家規

盛能

三抗

一甫

之長

景波井合

拍崎住合

日柳

正繼

但馬之住

恭頼

紀伊

熊野那智山住

通諄

覺了

圓惠

室後

時征

宗保

十一丸

二 五 四 二

二 四 二

播

張洛住武田

不吟

同不垣内抄之三

忠盈

泉吉田抄之三

利室

完栗不佳村抄之三

實次

水船丸之三

正室

賴宗的

室安

滿田

才彦

山内

林雪

備前

同玉國府寺抄之三

政次

泉形抄之三

友心

同不垣内抄之三

之富

同武本抄之三

正信

三永

正幸

相野抄之三

安志

甲

意計

五

七

十三

二

五

二

一

一

六

一

三

三

二

一

一

同山内抄之三

必松

同不垣内抄之三

仁意

同山内抄之三

信元

同

季明

同右卷抄之三

政成

泉西抄之三

安政

同小松原抄之三

助之

同江田抄之三

信要

同

茂成

同山田平丸門

正直

十

三

三

三

四

備中之住

吉田抄之三

信元

吉田市丸門

貞信

同益野抄之三

弘吉

九

一

一

津島抄之三

大乃

同松山抄之三

養白

一

三

阿波

正信 今作性乃山云云 三

讚岐之任

吉成 二

伊豫

吉政 督住 五

土佐之任

燕石子 十二

安藝

室繩 廣住 一

筑前之任

三純 一

筑後之任

隱雪 一 督 彦兵衛 一

薩广

朱秀 二 麻兒為佳因了吉 經實 早大山 五

日向

純俊 騷住 三

陸奥

元秀 一 會津住 揚靈 早 二

正之 一 仙臺住大為万之

所不知

好道 三 重明 二

天行 天皇寺屋了之 甚右衛門 一

長政 川修六之 理重 一

天保三重次

—

光重

—

信就

—

備勝

—

町田信之正重

—

本之

—

方继

—

發勺合貳千八百廿三勺

付勺合貳百勺

作者五百十又

明曆貳年

蔭山休安

丙申 睦月中旬

卷

五

洛陽三條寺町誓願寺前

安田十兵衛附板

